

SYOHEI ニュース 令和6年1月号

年頭のごあいさつ

元旦に発生した能登半島地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、1日も早く被災された方々に平穏な暮らしが訪れることを願うばかりです。

さて、新年を迎えて、皆様いかがお過ごしでしょうか。

奥州市では、令和5～9年度を計画期間とする奥州市立病院・診療所経営強化プランの策定が大詰めを迎え、現在、パブリックコメントを実施しており、3月までに策定を終える予定です。また、並行して進めている新医療センター整備につきましては、このほど新医療センター整備基本構想を策定し、現在、基本計画の検討を進めています。

経営強化プラン（案）及び新医療センター整備基本計画は市HPでご覧いただくことができます。

話は変わりましたが1月22日に衣川診療所が運用するモバイルクリニック（遠隔診療車）の出発式を行いました。

市の南西部、衣川地区で交通手段のない方、身体的に通院が困難な方のご自宅へ、電子聴診器、超音波診断装置、電子心電計などを搭載した車が出向き、診療所に居ながら診療する医師を車両内では看護師がサポート。電子カルテとも連携します。車両の愛称は、地元特産のリンドウから「りんりん号」と名付けました。将来、他の地区での運行も想定しています。

結びに、奨学生の皆さん、家族の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

奥州市病院事業管理者
朝日田 倫明



市内スキー場紹介：国見平スキー場

- 1 営業期間 R5.12.23(土)～R6.3.24(日)
- 2 場所 衣川長塚303:駐車場 500台(無料)
- 3 特徴 初心者でも安心して滑ることができる林間コースから上級者向けの最大斜度約30度のテクニカルコースなど、全11のコースを楽しめます。ボーダーが楽しめる深雪コースも充実。



イベントニュース

第35回全日本農はだてのつどい

- 1 開催日時 R6.2.10(土)16:00～
- 2 会場 胆沢野球場北側駐車場
- 3 内容 胆沢地域恒例の冬のまつりで、一年の農作業の安全と豊作を祈願し、庭田植行事の再現や福餅つき、縄ないチャンピオン決定戦、厄年連によるつがい踊り、冬花火の打ち上げなどが行われます。



黒石寺蘇民祭：(詳細は、裏面参照)

- 1 開催日時 R6.2.17(土)18:00～
- 2 会場 奥州市黒石町 黒石寺

奥州水沢くくり雛まつり

- 1 開催期間 R6.2.28(水)～R6.3.3(日)
- 2 会場：メイプル地下 市民ギャラリー、武家住宅資料館、みずさわ観光物産センター
- 3 内容 「くくり雛」の展示・公開・体験
〇くくり雛：「押し絵」の技法で作られた雛人形のこと、厚紙の部品の上に綿をのせ、布で組み合わせて押し絵に仕上げていきます。



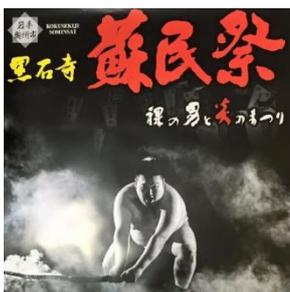
『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和6年1月29日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

1200年余の歴史に幕！ 2月17日(土)最後の開催へ

昨年12月5日、水沢黒石町の黒石寺(藤波大吾住職)は会見を開き、黒石寺蘇民祭は2月17日(土)の開催を最後に、今後は執り行わないと発表しました。

祭りの多くの儀式や準備には、先祖代々に地域の皆さんがそれぞれの役割を担っており、祭の中心を担っている関係者の高齢化と将来的な担い手不足を考慮した結果とのことです。

蘇民祭：東北の奇祭として全国的にも有名な黒石寺蘇民祭。五穀豊穡と無病息災を願い、下帯姿の男衆らが川の水で身を清め、護符(古間木)の入った蘇民袋を奪い合う。これは「身分を隠した神様へ宿を提供した蘇民将来の子孫は災厄を免れる」という故事に由来している。



神聖なこの祭りを執り行う人たちは、精進のため肉、魚などを7日前から一切口にしません。祭りの鬼子登りで神が乗り移る鬼子役の子どもまで、給食を止めてお弁当で学校に通います。

地域の根強い信仰が千年を越えて支える蘇民祭。豊かな年となるように、願いをかけた行ってみてはいかがでしょうか。

：広報おうしゅう平成22年2月号VOL.48ほか



最後の蘇民祭：黒石寺蘇民祭は毎年旧暦正月7日夜から8日朝にかけて行われますが、最後となる2月17日(土)は、17日だけの縮小開催となります。午後6時：裸参り(夏祭り)、午後7時30分：別当登り(厄年祈禱を含む)、午後9時：鬼子登り、午後10時：蘇民袋争奪戦で、午後11時頃までとなります。「柴燈木登(ひたきのぼり)」は行われません。

祭り当日の寺境内の風物詩・・・寺の境内に葦簀(よしず)張りの小屋が仮設され、参詣の善男善女が仲間ごとに一隅を占め、藁座布団に座って炭火を囲み、飲食し、暖をとり、仮眠しながら祭儀の都度・鐘の合図により参加していました。本来の意義は、神迎えのおこもりの姿といわれています。



妙見山黒石寺：黒石寺は、水沢駅から車で約20分、国指定重要文化財である御本尊の薬師如来坐像や、慈覚大師坐像などを目当てに、県外からの来訪者も多い。その歴史は12世紀



以降に造営された平泉の中尊寺よりも古く、729年(1295年前)に行基菩薩が開山し、その後戦火で焼失した寺を807年に征夷大將軍坂上田村麻呂が修築。849年に寺を訪れた慈覚大師円仁が、座禅した石窟の蛇紋岩に寺を見て、黒石寺と命名。北側にある大師山の妙見祠から山号を妙見山とし今に至ります。



黒石寺：水沢黒石町字山内 17 電話：0197-26-4168